



コロナ禍に立ち向かう！ 酒造メーカーの新たな挑戦



新型コロナウイルスの影響により酒類業界関係者も大きな打撃を受けました。誰もが予想しなかった事態のなか、復興を願う「アマビエ」「アマビコ」ラベル酒の発売など、各酒造メーカーが新たな挑戦に乗り出し、話題を集めています。

～消毒液不足に助っ人～ 酒造メーカーの高濃度酒生産相次ぐ

新型コロナウイルスの感染拡大で手指消毒液が不足する中、2020年3月末、厚生労働省が高濃度アルコールを消毒用に代用することを特例で容認しました。これを受けて熟練した醸造技術と管理された衛生的なボトリング設備を活用し、酒造メーカーによる高濃度酒の生産が全国で広まり、数多くの新商品が発売されました。また、国は消毒に有効とするアルコール濃度の引き下げ、製造免許取得手続きの簡素化を実施。「飲用不可」をラベルに表示した製品に関して酒税を課さないなど、一連の規制緩和を実施し増産を後押ししました。

関係省庁の指導のもとで発売された高濃度アルコールの大半は、医療関係施設や高齢者介護施設、学校等の教育機関に供給されますが、メーカーによっては地元を中心とした個人向け販売もあるようです。徐々にスーパーや酒屋の店頭でも見かけるようになってきています。



- 1 南アルプスワインアンドビバレッジ：アルコール66 250ml
- 2 宗政酒造：NONNOKO スピリッツ65 300ml
- 3 笹の川酒造：SPIRIT66 500ml
- 4 玉泉堂酒造：Vホワイト72 500ml
- 5 秋田醸造：美酒爛漫 秋田アルコール71 700ml
- 6 まさひろ酒造：まさひろウォッカ66% アルコール 700ml

～コロナ退散を願って～ 「アマビエ」「アマビコ」ラベルのお酒が続々登場

新型コロナウイルスの感染に関連し、疫病よけの妖怪とされる「アマビエ」「アマビコ」がネットを中心に注目を集めています。厚生労働省が感染拡大防止の啓発用画像に使用したり、プロ・アマ問わずイラストなどをSNS上に投稿する人が相次ぎ、大きな話題となりました。

酒類業界においても、コロナ退散を願い、「巣ごもり消費」向けに「アマビエ」「アマビコ」ラベルのお酒が続々と発売されました。新型コロナウイルスが一日でも早く沈静化することを願うばかりです。



「アマビエ」とは、古くから伝わる疫病退散の半人半魚の妖怪。江戸時代後期に肥後国(現・熊本県)の海中から現われ、「疫病が流行すれば私の姿を描いた絵を人々に早々に見せよ。」と言い残し、海の中へと姿を消しました。それが人々に伝わり、疫病退散にご利益があると信じられたのだそうです。



「アマビコ」とは、江戸時代の瓦版に掲載された豊作と病を予言する三本足の猿の姿の妖怪。雨彦、海彦、あま彦、天日子などと表記され、一説によると、アマビコの「コ」の字が「エ」に書き間違えられ「アマビエ」になったと言われています。



- 1 佐藤酒造店：出羽の富士 生貯蔵酒 アマビエラベル 300ml
- 2 沢の鶴：純米吟醸 あまびえ 720ml
- 3 三芳菊酒造：疫病退散アマビエ特別純米 720ml
- 4 仙台伊澤家 勝山酒造：疫病退散！勝山純米吟醸 アマビエ・アマヒコラベル 720ml
- 5 関谷醸造：スピリッツ66° 500ml
- 6 本家松浦酒造場：すだち酒 アマビエちゃんラベル 720ml
- 7 旭洋酒：OFUDA AKA/OFUDA SHIRO 720ml